

「JENESYS2.0」中国青年代表团

訪問日程 平成 26 年 8 月 26 日（火）～8 月 31 日（日）

1 プログラム概要

中国日本友好協会が派遣した中国青年代表团計 94 名が、8 月 26 日から 8 月 31 日までの 5 泊 6 日の日程で来日しました。（団長：王秀雲（オウ・シュウウン）中国日本友好協会副会長）

本事業は「JENESYS2.0」の一環として行われ、行政・経済・農業に関する官庁・企業・団体などへの訪問・視察を行ったほか、日本の政治・経済・科学技術・社会・歴史・文化等が体感できるような施設や、地方都市の訪問を通じて、クールジャパンに直接触れ、日本に対する包括的な理解を深めました。

2 日程

8 月 26 日（火）

成田国際空港より入国、皇居二重橋見学

8 月 27 日（水）

- ・ 共 通
オリエンテーション、歓迎会
- ・ 公務員グループ
東京都庁訪問、先端技術館 TEPIA 視察、浅草寺見学
- ・ 経済グループ
東京証券取引所視察、東京タワー見学、東芝未来科学館視察
- ・ 農村青年幹部グループ
農林水産省による講義、JA 東京あおば総合園芸センターふれあいの里訪問

8 月 28 日（木）

広島県へ移動、広島市中工場視察（環境施設）、原爆ドーム・平和記念公園見学

8 月 29 日（金）

- ・ 公務員・経済グループ
広島県の経済政策に関する講義、中国醸造株式会社訪問、広島城見学
- ・ 農村青年幹部グループ
広島県の農業政策に関する講義、安芸太田町訪問・農村視察
- ・ 共 通
和風旅館での日本文化体験

8 月 30 日（土）

宮島・厳島神社見学、京都へ移動、清水寺見学、商業施設視察、歓送報告会

8 月 31 日（日）

関西国際空港より帰国

3 写真

	
8 月 26 日 皇居二重橋 見学（東京都）	8 月 27 日 舛添要一 東京都知事表敬訪問（東京都）
8 月 26 日 参观皇居二重桥（东京都）	8 月 27 日 拜访舛添要一东京都知事（东京都）
	
8 月 27 日 浅草寺見学（東京都）	8 月 27 日 先端技術館 TEPIA 視察（東京都）
8 月 27 日 参观浅草寺（东京都）	8 月 27 日 考察尖端技术馆@TEPIA（东京都）
	
8 月 27 日 東京証券取引所視察（東京都）	8 月 27 日 東京タワー見学（東京都）
8 月 27 日 考察东京证券交易所（东京都）	8 月 27 日 参观东京塔（东京都）

	
8月27日 東芝未来科学館視察（神奈川県）	8月27日 農林水産省による講義（東京都）
8月27日 考察东芝未来科学馆（神奈川県）	8月27日 农林水产省讲座（東京都）
	
8月27日 JA東京あおば総合園芸センターふれあいの里訪問・視察（東京都）	8月27日 歓迎会 植野篤志 外務省中国・モンゴル第一課長の挨拶（東京都）
8月27日 訪問 JA（日本农业协同工会）東京青叶、総合园艺中心“交流之乡”（東京都）	8月27日 欢迎会 植野笃志外务省中国・蒙古第一课长致欢迎辞（東京都）
	
8月27日 歓迎会 王秀雲団長（左2）と来賓が歓談（東京都）	8月28日 原爆ドーム見学（広島県）
8月27日 欢迎会 王秀云团长（左2）与来宾畅谈（東京都）	8月28日 参观原子弹爆破圆顶屋（広島県）

	
8 月 29 日 広島県の経済政策に関する講義 (広島県)	8 月 29 日 中国醸造株式会社訪問・視察 (広島県)
8 月 29 日 広島県商工労働局講座 (広島県)	8 月 29 日 考察中国醸造株式会社 (広島県)
	
8 月 29 日 広島城見学 (広島県)	8 月 29 日 広島県の農業政策に関する講義 (広島県)
8 月 29 日 参观广岛城 (广岛县)	8 月 29 日 広島県农林水产局講座 (広島県)
	
8 月 29 日 安芸太田町訪問・農村視察 (広島県)	8 月 30 日 宮島・厳島神社見学 (広島県)
8 月 29 日 访问安艺太田町，考察农村 (广岛县)	8 月 30 日 参观宫岛、严岛神社 (广岛县)

	
8 月 30 日 清水寺見学（京都府）	8 月 30 日 歓送報告会 団員の感想発表（京都府）
8 月 30 日 参观清水寺（京都府）	8 月 30 日 欢送报告会 团员发表访日感想（京都府）

4 参加者の感想（抜粋）

- 今回の訪問で一番印象に残り、心を突き動かされたプログラムは、先端科学技術館 TEPIA の見学だった。TEPIA では日本の現在進行形の新技术とその応用分野を見たり体験したりして、技術革新という点で大いに刺激を受けた。またその素晴らしさに感服する技術もあった。例えば、免震・減災設備の数々。実験用模型を実際に体験することで、こうした設備の多くが既に実際の生活に活かされていることを知り、その応用価値の高さと生活への貢献度の大きさを実感した。日本のように地震や自然災害が多発する国では、災害がもたらす不幸を少しでも避けるため、こうした高い技術がより求められるのだろうが、この技術を海外にも広めていけば、きっと世界中の人々の役にも立つはずだ。他にも創意あふれる新技术、ロボットや新素材などを見学し、日本の細部へのこだわり、技術革新の重要視を強く感じた。戦後日本の目覚ましい成長ぶりもこれで理解できようというものだ。

見学の最後に、日本の産業発展の歩みというドキュメンタリーフィルムを鑑賞した。これにより、日本が第二次大戦後、国民あげての努力の末、いかにして軽工業から重工業、そして先端技術製品製造へと経済の構造改革を成し遂げて来たのかを知った。また、メイド・イン・ジャパンの自動車・船舶・トランジスタといった世界トップクラスの工業製品を作ること、戦後の廃墟から立ち上がり、成長し、やがて先進国の仲間入りを果たしてきた、その過程を知ることができた。まさに科学技術で未来を牽引していくという理念、感性に訴える新産業こそが、中国がこれからも推し進めていくべき鍵なのだとあらためて痛感した。帰国後は、私が感じたこれらのことを周囲の同僚や友人たちに伝え、更に多くの人に日本を知ってもらい、日本に対するより客観的な理解と評価を促したいと思う。

- 日本という国はじっくりと身を持って感じ取るべき国である。できればより心を解き放ち、この国の文化や環境や人々のことを肌身で感じるのがいいだろう。

最も印象深かったのは日本人の生真面目な仕事ぶりだ。ANA のキャビンアテンダントの行き届いたサービスといったら素晴らしい。しかし、みんな目が真っ赤なの

だ。今回日本の多くの働く人たち、とりわけ女性たちの目の下のふくらみが目についた。長時間労働と頑張り過ぎによるものだろうと言う者がいた。帰国後、周りの人に伝えたい事柄は以下の通りである。

1. 空気が綺麗で、自然環境・都市環境共に良好。
2. 一般の人々は総じて友好的。
3. 仕事に対し皆とても一生懸命。細かな所も全くゆるがせにしない点は見習うべき。

- 1 番目に感じたのは、日本では政治や社会、市場と庶民の生活との連動性は限定的で、政治が社会に与える影響は中国よりはるかに少ないということである。中日関係も想像していたほどひどくはなかった。日本では市民社会や公益団体が成熟しており、社会が受ける政治の影響は小さいのだろう。

2 番目に日本では宗教文化が浸透しているという点。東京の品川区では、500メートル足らずに1箇所の割合で神社や教会があるといい、一般の人々にとっての信仰の拠りどころとなっているようだ。

3 番目に都市計画が合理的で地下が高度利用されているということ。例えば、東京都内では地下、とりわけ地下鉄駅周辺の地下空間がとても賑わっている。広島市の中心地域では、文化・スポーツ・芸術施設、行政等の公共機関がとても合理的に配されていた。

4 番目に日本人はフレンドリーだということ。特にサービス業に携わる人々はとても仕事熱心だった。例えば、ホテルの従業員は終始満面の笑顔を浮かべているし、ガイドさんはまさにプロ。何を言っても聞いても嫌な顔ひとつ見せることはなかった。

5 番目に日本人の究極志向。これは特に見習うべき点だ。この精神は随所に表れており、都市空間の最大限の利用、塵一つない街の清潔さ、都市住民のごみ分別の徹底ぶり、細やかに作り込まれた食品、小さくともすべてが備わっている実用性、世界に名だたる各種家電製品等々。日本人は何をするにも、何を作るにしても、何のサービスでも、極限を目指そうとするのである。

- この度、中国青年代表団の一員として日本を訪れた。中日関係が歴史上最も難しい時期ではあるが、日本側の細やかで行き届いたご手配、温かなおもてなしが深く心に残った。

今世界は、経済のグローバル化・一体化の歩みを速めるばかり。国同士の経済や貿易の結びつきは一層強まり、あたかも相手の中に自分がいるかのようだ。状況は既にそうした段階にまで進んできているのである。今回プログラムで訪れたそれぞれの地方で、経済発展への切実な願いや人々の良い暮らしへの期待というものを強く感じた。

日本文化の源は中国唐の時代にさかのぼるとはいえ、度重なる変遷を経て日本は高度経済成長の波に乗り、先進国の仲間入りを果たした。中華民族として、我々は伝統的美徳の謙虚さを以て彼我の差を認め、足らざるを直視しなければならない。偏狭な考えを捨て、長所を学び、それを我がものとする事で中国の飛躍的發展を実現すべきだと考える。

今回の日本訪問で私は、教育、国民レベルの向上、科学技術におけるイノベーション、都市の総合的な管理等の点で、日本には確かに我々が学ぶべき優れた経験があることを知った。例えば、都市の総合管理において、東京圏の全体計画、都市機能の合理的な配置、土地利用の節約と集約等は、今の我が国の京津冀（北京・天津・

河北省冀州地域）一体化戦略の実現と北京の「大都市病」を解決する上で大変参考となるものだった。

総じて、今回の訪日日程は短期間ではあったが多くの収穫を得た。このうち良い情報は国内にも伝え、日本に対する理解を促していきたい。中日関係の改善と両国共同の発展は、大勢の赴くところ、人心の向かうところなのである。

- 印象に残ったことの1つ目は、東京都知事を表敬訪問した際、北京・東京の両都市の交流と協力関係を強めるべきとの舩添知事の話である。今、中日関係は難しい時期にあるものの、経済分野や民間の友好交流については更に推し進めていくべきであり、相互理解を通じ、正しい歴史認識と事実の尊重を前提に、政治の“氷を粉砕”しなければならないとのことだった。

2つ目は日本人の社会秩序や規範意識の尊重とその実行についてである。日本訪問を待たず、私は早くからそのことは耳にしていたが、今回の訪問で日本の街角で見聞きしたこと、広島のごみ処理場（広島市中工場）の見学などを通じ、社会管理や環境保護面でのルール策定、施設建設、そして国民がそうしたルールをしっかり守っていることを目の当たりにした。この面では中国が見習い、参考とすべき点が多々あると感じている。

最後に JENESYS2.0 プログラムに感謝したい。日本がこうして自ら進んで周辺の国々にすべてをさらそうとする態度は我々も見習うべきだ。できれば今後フォローアップや答礼訪問、再訪といった体制を整えてはもらえないだろうか。そうすることで参加団員の日本への更なる理解を持続させられるし、今後業務や日々の生活において中日関係改善に向けた努力を促すことができるのではないかな。

- 日本の社会は秩序が保たれ、人々は皆とても勤勉で仕事熱心、自然の風景が素晴らしいばかりでなく、人々の自然を大切にしようとする意識も高く、エコロジーサイクルのための科学技術も発達している。

日本の食文化も独特だ。素朴でありのままの素材を生かしつつ、細やかな仕事で施された食事は日本文化の香りに満ちている。もちろん日本酒も鮮烈だ。杯が止まらなくなる。観光業も盛んなので、帰ったら友人たちに日本への旅行を薦めたいと思っている。

また、今回は東京証券取引所や東芝未来科学館も見学した。何といっても世界第三の証券取引所であり、有名な科学技術産業メーカーなのだから大変印象に残っている。金融そして科学技術サービスの発達度、技術革新力の持続、共にナンバーワンであろう。興味深かったのは、日本のように終身雇用があたりまえだった社会において、こうしたイノベーション力をどうやって刺激し続けてきたのかということである。また、個人・個性と集団とはどのようにバランスを取っているのか。中国では今 90 年代・2000 年代生まれの世代現象が露わになっているが、日本の企業ではこうした新世代の従業員管理をどうしているのだろうか。

広島訪問はとても心に残っている。戦後の復興、痛みや悲しみからの回復。時間がすべてを修復してくれる。しかし、日本の低出生率については気掛かりだ。中国でも今、都会に住む若者たちの間で、生活に追われ、晩婚・高齢出産、あるいは DINKS(double income no kids: 共働き・子供無し)を選ぶ風潮が大はやりなのだ。

- 主な感想や私が感得したことは以下の通りである。
 1. 日本は企業であれ、個人であれ、生活や仕事に対し真面目で細やかである。熱心な仕事ぶりはとても心に残った。帰国後は自分の仕事においても絶えずそう

ありたいと思っている。

2. 日本社会の基礎教育に対する設計や力の入れ方には感服した。基礎教育の段階から国民の科学的素養を育むというのはとても大切だし必要なことだ。
3. 日本の企業は科学的管理の細分化という点で高効率であり、その先進的な製造過程は大いに参考とすべきである。
4. 環境保護と持続可能な発展、とりわけ各種資源の合理的で有効な利用という点で多くのこと考えさせられたし、啓発された。
5. 日本は経済先進国として、経済の構造改革においてプレッシャーと課題に直面している。ネット時代の経済グローバル化の中でどうやって今のこの不景気から脱するのか、日本政府の措置に期待している。

- 日本側スタッフは何をするにも大変真面目できちんとしていた。行く先々の見学地についてしっかり準備しているのが分かったし、親切でよく気が付き、とても心に残っている。

企業訪問では、どこもわかりやすい見学ルートとプロセスが設定されていた。また全体を通して子どもや市民への教育的配慮がなされ、科学技術や環境保護の面で国民の参与を促すよう考えられていて意義深いと感じた。

経済と科学技術の急速な成長を経た後、ある一定の物質的・社会的条件が備わった上で、日本の社会と人々はある種、静かで穏やかで安寧な心の状態を手に入れたように見える。それはきつとてつもないエネルギーと精神力に支えられてのことだろうが、人々は更によりシンプルで素朴で穏やかな生活スタイルを選びたがっているようにさえ感じられた。これは今の私たちにはまだ到達できていない状況だ。時間が経過し、国全体の実力が上がった後、ようやくもたらされる必然の結果なのであろう。

- 心に刻まれたいくつかのキーワード、それは“秩序、高効率、謙虚、人権、融合文化”である。

ごみ処理場での厳密な処理工程、科学的な施設設計、そしてこれだけの処理場をわずか 32 名の職員で操作、運転、保守まで行っているという事実。それを知った時、私は日本人の科学的管理と社会問題を処理していく上での厳格さと秩序を真に理解したような気がした。

また今回、全日程を通して我々は常に厳しく細部まで考え抜かれた時間配分のもとに置かれた。驚いたのは、こうしたスケジュールをぴったり実現できたのは、団員の協力を除けば、日本人の効率の良さ、細やかさ、そして社会全体の時間に対する強い共通観念（交通のスムーズな移動も含めて）抜きには語れないということである。セミナーを受ける際、どの講師も時間厳守だったのもこの高効率と細やかな心遣いの表れといえよう。

更に私が一人で東京の街をぶらぶらした時のこと。人権と文化の融合がここでも見事に体现されていた。例えば、喫煙エリア。屋外でありながらも厳密に区分けがされていた。また、地下鉄の切符精算機、そしてどこでも必ず敷設してある点字ブロック。これらは皆、生活の中での人権を大切にしようとする意識の表れである。融合文化について言えば、伝統と現代の混在であれ、東洋と西洋の混合であれ、それらがここ日本では強烈に感じられる。こうした文化の融合と衝突もまた、日本の包容力と融通性を表すものであるといえよう。

以上、私が中国国内の同胞たちに伝えたいと思っている事柄である。

- 8月28日夜、買い物に出た時のことである。日本の店員さんはとても親切で、私が服を試着する間ずっとひざまずいてサービスしてくれた。私は幾度となく彼女を立たせようとしたが、最後まで承服してくれなかった。それで結局、私はその店でたくさん服を買い込んだ。何ととっても楽しかったからなのだが。店員さんは私と簡単な交流をしながら、似合いそうな服を選んでくれたり、コーディネートの方を教えてくれたりした。その間ずっと、私は彼女の温かさと友愛の情に包まれていた。最後に私は、次もまた来るから、と彼女に名刺を渡した。ところが、買い物を終えた時、お店は既に閉店しており、仲間の団員の姿も見えなくなっていた。その日、私はホテルのキーカードを携帯しておらず、携帯電話もWi-Fiがなくては繋がらない。唯一連絡の取れる班長への電話もダメだった。英語も日本語もできない私はやがて怖くなってきた。しかしその時、店にいた1人の日本人の娘さんがずっと私に付き添い大通りまで送ってくれ、更には一緒に仲間の団員まで探してくれたのだ。彼女がいたことで、私は家族のような温もりを感じることができた。本当に感謝している。

帰国後、日本の伝統文化や人への思いやりなどを周りの人たちに伝えていきたい。今回の日本訪問はとても楽しかったし、感動的でもあった。同時に買いたい物を買いきれなかった悔しさも残っている。東京でまた集まりましょう。

- 飛行機が東京の上空に差し掛かった時、窓からの眺めに私は驚いた。なんて綺麗！市街地の緑化、都市計画の素晴らしさ、とにかく街全体があまりにも美しいのだ。やがて空港を出てバスに乗り、皇居へと向かう途上、私は沿道を走る乗用車がほぼみんな日本の国産車であることに気付いた。しかもどれもが実用的な普通車だ。中国とはまるで違う。だがもっと驚いたのは、路上でクラクションを鳴らす車がない、無理な追い越しをする車も一台も見当たらない、みんなとても行儀よく譲り合っているということだった。

この数日間の訪問で、私はとても多くの日本人に出会った。誰もが本当に礼儀正しく、控えめで穏やか、そして親切だった。たくさんの温かさももらった。最も印象的だったのは、JA 東京あおば総合園芸センターの見学を終え、歩いて戻ろうとしている時だった。道端で下校してきたばかりの男の子と出会った。とても恥ずかしがり屋で可愛らしかった。私たちが道を塞いでいたので、彼は少しばかり焦った様子だったが、仕方なく黙って私たちの後を歩いていた。ようやく私たちがその子に気づき、先に行かせてあげたところ、なんと彼はこちらに深々と一礼したのだ。私は本当に感動した。この国の人々はなんてレベルが高いのだろう。

印象に残ったことの3つ目は広島県の農村についてである。たったの23世帯53人が暮らすこの小さな村（地区）は、中国ではおそらく村として成り立つことすらできない規模だ。その上、住民のほとんどはお年寄り。それなのに、この村の美しさといったらないのだ。緑の山に清らかな水、金色に輝く稲穂、連なる棚田。目の前の風景がこのわずかな人々の手によるものだなんて一体誰が信じるだろう。帰国後、私は自分が見聞きしたことをそのまま友人たちに伝えようと思う。この美しい日本にまた来られることを願いつつ。

- 今回日本を訪れ、日本側が用意してくれた綿密で周到なプログラムを通じ、私は日本という国の発展の様子をより深く知ることができた。日本人の礼儀正しさ、穏やかさと優しさ、街の緑化や美化、人々の自律心と向上心、どれも敬服するばかりである。

見学では、皇居二重橋だけでなく、日本の政治の中心、そして東京の賑やかな繁華街にも行った。また、日本ならではの特色を備えた厳島神社や清水寺も訪れ、異国情緒を味わった。広島の中工場見学や新幹線乗車では日本の科学技術力を体験できたし、農村現場で暮らす私たち大学生村官に合わせ、農林水産省や広島県農林水産局は日本の農業の現状と理念について紹介してくださり、大いに啓発された。和風旅館の宿泊では本物の日本文化に触れ、日本への更なる興味をかきたてられた。

帰国後は自分の見たこと感じたことを同僚や家族、友人たちに伝えたい。日本の驚くべき発展ぶり、賛嘆すべき文化、尊敬に値する国民レベルの高さ。客観的かつ本当の言葉で、もっと多くの日本の状況を周囲の人々に伝えたいと思う。そして、今回の訪日の成果をこれからの自分の仕事に積極的に活かしていきたい。中国と日本が今後絶えず高めあい、学び合い、共に成長していけるよう願っている。

- 5泊6日の旅程は本当にハードだった。だがこれこそ日本人の日常の生活リズムそのものなのだろう。ゆえに私の心に残った最初の1つがこの日本人の生活リズムについてだ。道をせかせかと行き交う人々、夜10時を回っても仕事を終え帰宅する人たちが混雑する地下鉄駅、自分のことに忙しそうな人々が常に私の目に入った。暇そうな人などほとんどいない。スーパーであれ、お店であれ、東京の繁華街を除いては街をぶらついている人を見ることはあまりなかった。

印象に残ったことの2つ目は日本人の環境意識である。一旦環境が壊されれば、直に被害を受けるのは自分たち一人一人だからなのだろう、皆の環境保全意識は極めて高い。対して中国ではどうか。人々の多くが環境保護など自分たちとは遠いもの、危害が自分たちの身に及ぶことなどないと捉え、環境問題を軽視している。ここは中国人が日本人に見習うべき点であろう。

3つ目は、日本の農村建設についてである。どこからが農村部でどこからが都市部なのか、明確な区分けはなされていないものの、いかにも農村といった地域、とりわけ農家民宿地区に一步足を踏み入れた途端、私たちは東京など市街地との明らかな違いを感じた。まるで中国みたいに、無意識のうちに人々に親しみを感じるし、農家の麦畑を見れば何だか中国の田舎に帰って来たかのようなようだった。だが指摘すべきは、田畑に舞う土埃が集落までをも埃まみれにはしていないということだ。村全体がまるで別荘地のようなのだ。対して中国では、農業をやっている家は普通の家とはもう“見るからに”区別がつく。これは日本と中国の気候の違いもあるだろう、多くはやはり意識の違いによるものと言えよう。

さようなら、JAPAN!

- 訪日プログラムも間もなく終わろうとしている。この間、私は多くを目にし、多くのものに触れ、たくさんを感じた。短い期間ではあったが、とても心に残る旅だった。

考え方という点では、まず日本に対する私の見方が変わった。これまでの反感、更には嫌悪感が今では好感へと変化した。日本人の仕事ぶり、日本の環境をととても好ましく思う。また、生活という点について言えば、私は日本の生活に憧れさえ覚える。ここ数日の体験から、日本の生活はとても充実しており、人生の意義が存分に発揮できるように感じた。仕事の忙しさ、そしてそれに対する懸命な対応は中国だけでなく世の人々も見習うべきであろう。

私がこうした感慨を抱くに至ったのは、ここ数日で見聞きしたことによる。東京に着いたばかりの日、私は寝る前にシャワーを浴びた。するとホテルの浴室の鏡に湯気で曇らない部分があるのに気付いた。シャワーを浴びても、湯気で鏡が見えな

くなるなどということがないのだ。とても不思議に思い鏡の表面をなでてみると、その部分が暖かい。なるほど、鏡の裏を加熱し、シャワーの湯気で曇り見えづらくなることを防いでいたのだ。これで私の日本人への見方が変わった。なんと細やかな心配りではないか。シャワーの後ベッドに横になると、今度は枕もとのライト下にある棚の横に非常用懐中電灯が備え付けられているのが目に入った。日本人の細やかで行き届いたサービスには本当に感心する。私が中国のホテル業界について明るくないからかもしれないが、いずれにせよこんなにもきめ細やかなサービスが人々に受け入れられないはずがない。その後のプログラムにおいても、どの説明会であれ宴会であれ、いつも心づくしのもので、私の日本に対する見方は根底から覆されるに至ったのだった。

帰国後、私は自分が目にした日本を人々に伝え、真の日本の姿を分かってもらおうと決心している。同時に、ある特定の団体や個人の言論に惑わされ、中日両国の発展を妨げてしまわぬよう、隣国同士の団結を損ねることのないようにしなければ、と心に決めた。ウェイボー（中国版ツイッター）を活用し、中日関係のバランス良い発展のため、そして両国が共に繁栄していくため力を尽くしたいと思っている。

- 中国と日本とは悠久の歴史的・文化的繋がりを有し、地理的にも極めて近い関係にある。また、日本は近代化に向けての歩みの中で多くの経験を積み重ね、合理的な都市・農村づくりを実現し、我々にとって見習うべき点は少なくない。

まずは綺麗で清潔な環境。日本では行く先々、それがたとえ目につにくい片隅であっても塵一つない、というのが直観的な感想だ。省資源や環境保護が社会全体の自覚的な共通認識となっていれば、人々は知らず知らずのうちに身の回りの小さな物でも大切にすると、環境破壊への危機感をつのらせるものだ。

そして美しく生き生きとした農村づくり。山の上の棚田、麓の村落、静かな山間にあってそのすべてがあまりに美しく、お邪魔するのが憚られるほどだった。しかし一歩農家に足を踏み入れると、そこにはお年寄りや子どもたちの楽しげな笑い声。日本の農村における経済的豊かさの活力と村人一人一人の次世代教育に対する責任感を強く感じた。

また、親切でフレンドリーな日本の友人たち。随行の通訳らスタッフの方々は皆に絶えず気を配り、世話をし、労苦をいとわずあれこれと注意を促してくれた。彼らの熱心な仕事ぶり、ご苦労、温かさには心から感心し、感動させられた。中日友好協会と日中友好会館の厚いおもてなしに大いに感謝したい。

私はたくさんの思いと美しい人や出来事にまつわるあれこれを中国に持ち帰り、周りの人たちと分かち合いたいと思っている。また多くの日本の若者にも中国へ来てもらいたい。そして想像とは違う、活力にあふれ変わり続ける中国を感じてほしい、中国の夢の美しさを感じ取ってもらえればと思う。

とこしえの友情を願って。

- 日本の旅は私にこれまでとは違う印象をもたらしてくれた。
 1. 私は今まで日本は混雑しひしめき合っている国だと思っていた。ところが結果は清潔な街並み、高々と生い茂る木々、秩序ある整然とした道路がそこにあった。とりわけ至る所で目にする豊かな木々が強く印象に残った。高度に発展した工業国家でありながらこの環境の素晴らしさ。我々が学び見習うべき点であろう。
 2. 日本社会の高齢化と社会全体の都市への一極集中化は、我が国とよく似た状況である。日本の農村地域を訪れた時、あたかも数年後の中国の農村を見るよう

であった。こうした面で我々は日本と交流を密にし、協力し合いながら発展を模索していくべきであろう。

3. 日本の農業における丁寧で高効率な生産と農作物の高度な加工の様子は印象的だった。JA 東京あおば総合園芸センターを見学した際、さまざまに加工された農産品の数々に心が躍った。私は大学で農業を専攻し、今も農業関連事業に携わっているため、見学中は自分たちもこうした農産加工品を開発し、農業の付加価値を高めていきたいという思いに強く駆られた。今後も交流を続け学んでいければと思う。
4. 日本人の助け合いの精神も深く心に残っている。JA の農協組織であれ、農村地域におけるさまざまな協会団体であれ、農家が自分たちで立ち上げ、自発的にそれに参加するという協働精神は中国も見習い広めていくべきであろう。

帰国後、私はこれら参考とすべき事柄についてしっかり皆と共有したいと思う。農産物の厳格な品質検査、完璧な農産品加工とその包装、共助の精神、農家民泊型のグリーンツーリズムなど中国国内にも伝えていきたい。